



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	(仮称)裾野市千福特別養護老人ホーム新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.8 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目																																																														
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	得点	3.3																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④内装やダクト、配管に耐久性の高い材料を選定し、更新間隔が長くなるよう配慮した。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱材を強化し、建物の熱負荷抑制に考慮した。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓、擬音装置を採用し、水資源の保護に配慮した。 ⑫ビニル床シート、タイルカーペット、断熱材にリサイクル材を採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭ライフサイクルCO2排出率75% 	<table border="1"> <tr> <td>Q-1 2 2.1 2.1.2 ①</td> <td>外皮性能</td> </tr> <tr> <td>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②</td> <td>昼光利用設備</td> </tr> <tr> <td>3.2 3.2.1 ③</td> <td>昼光制御</td> </tr> <tr> <td>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</td> <td>躯体材料の耐用年数</td> </tr> <tr> <td>2.2.2 ④</td> <td>外壁仕上げ材の補修必要間隔</td> </tr> <tr> <td>2.2.3 ④</td> <td>主要内装仕上げ材の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td>2.2.4 ④</td> <td>空調換気ダクトの更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td>2.2.5 ④</td> <td>空調・給排水配管の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td>2.2.6 ④</td> <td>主要設備機器の更新必要間隔</td> </tr> <tr> <td>Q-3 1</td> <td>⑤ 生物環境の保全と創出</td> </tr> <tr> <td>3 3.2 ⑥</td> <td>敷地内温熱環境の向上</td> </tr> <tr> <td>LR-1 1</td> <td>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>⑧ 自然エネルギー利用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>⑨ 設備システムの高効率化</td> </tr> <tr> <td>4 4.1 ⑩</td> <td>モニタリング</td> </tr> <tr> <td>4.2 ⑩</td> <td>運用管理体制</td> </tr> <tr> <td>LR-2 1 1.1 ⑪</td> <td>節水</td> </tr> <tr> <td>1.2 1.2.1 ⑪</td> <td>雨水利用システム導入の有無</td> </tr> <tr> <td>1.2.2 ⑪</td> <td>雑排水等利用システム導入の有無</td> </tr> <tr> <td>2 2.1 ⑫</td> <td>材料使用量の削減</td> </tr> <tr> <td>2.2 ⑫</td> <td>既存建築躯体等の継続使用</td> </tr> <tr> <td>2.3 ⑫</td> <td>躯体材料におけるリサイクル材の使用</td> </tr> <tr> <td>2.4 ⑫</td> <td>躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</td> </tr> <tr> <td>2.5 ⑫</td> <td>持続可能な森林から産出された木材</td> </tr> <tr> <td>2.6 ⑫</td> <td>部材の再利用可能性向上への取組み</td> </tr> <tr> <td>3 3.1 ⑬</td> <td>有害物質を含まない材料の使用</td> </tr> <tr> <td>3.2 3.2.1 ⑬</td> <td>消火剤</td> </tr> <tr> <td>3.2.2 ⑬</td> <td>断熱材</td> </tr> <tr> <td>3.2.3 ⑬</td> <td>冷媒</td> </tr> <tr> <td>LR-3 1 ⑭</td> <td>地球温暖化への配慮</td> </tr> <tr> <td>2 2.2 ⑮</td> <td>温熱環境悪化の改善</td> </tr> </table>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	3.2 3.2.1 ③	昼光制御	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔	2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔	2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	2	⑧ 自然エネルギー利用	3	⑨ 設備システムの高効率化	4 4.1 ⑩	モニタリング	4.2 ⑩	運用管理体制	LR-2 1 1.1 ⑪	節水	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無	1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無	2 2.1 ⑫	材料使用量の削減	2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用	2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材	2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用	3.2 3.2.1 ⑬	消火剤	3.2.2 ⑬	断熱材	3.2.3 ⑬	冷媒	LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮	2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善
Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能																																																														
Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備																																																														
3.2 3.2.1 ③	昼光制御																																																														
Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数																																																														
2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔																																																														
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔																																																														
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔																																																														
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔																																																														
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔																																																														
Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出																																																														
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上																																																														
LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制																																																														
2	⑧ 自然エネルギー利用																																																														
3	⑨ 設備システムの高効率化																																																														
4 4.1 ⑩	モニタリング																																																														
4.2 ⑩	運用管理体制																																																														
LR-2 1 1.1 ⑪	節水																																																														
1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無																																																														
1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無																																																														
2 2.1 ⑫	材料使用量の削減																																																														
2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用																																																														
2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用																																																														
2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用																																																														
2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材																																																														
2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み																																																														
3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用																																																														
3.2 3.2.1 ⑬	消火剤																																																														
3.2.2 ⑬	断熱材																																																														
3.2.3 ⑬	冷媒																																																														
LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮																																																														
2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善																																																														
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	得点	3.0																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型便器、浄化槽を設置 	<table border="1"> <tr> <td>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</td> <td>耐震性</td> </tr> <tr> <td>2.1.2 ⑯</td> <td>免震・制振性能</td> </tr> <tr> <td>2.4 2.4.1 ⑰</td> <td>空調・換気設備</td> </tr> <tr> <td>2.4.2 ⑰</td> <td>給排水・衛生設備</td> </tr> <tr> <td>2.4.3 ⑰</td> <td>電気設備</td> </tr> <tr> <td>2.4.4 ⑰</td> <td>機械・配管支持方法</td> </tr> <tr> <td>2.4.5 ⑰</td> <td>通信・情報設備</td> </tr> </table>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	2.4.3 ⑰	電気設備	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	2.4.5 ⑰	通信・情報設備																																																
Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性																																																														
2.1.2 ⑯	免震・制振性能																																																														
2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備																																																														
2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備																																																														
2.4.3 ⑰	電気設備																																																														
2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法																																																														
2.4.5 ⑰	通信・情報設備																																																														
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	得点	2.8																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳建物全体0.1以上0.3未満 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	<table border="1"> <tr> <td>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</td> <td>ユニバーサルデザイン計画</td> </tr> <tr> <td>3 3.1 3.1.1 ⑲</td> <td>階高のゆとり</td> </tr> <tr> <td>3.1.2 ⑲</td> <td>空間の形状・自由さ</td> </tr> <tr> <td>Q-3 3 3.1 ㉑</td> <td>地域性への配慮、快適性の向上</td> </tr> </table>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上																																																						
Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画																																																														
3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり																																																														
3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ																																																														
Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上																																																														
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	得点	2.4																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) 	<table border="1"> <tr> <td>Q-3 1</td> <td>⑳ 生物環境の保全と創出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>㉒ まちなみ景観への配慮</td> </tr> <tr> <td>3 3.2 ㉓</td> <td>敷地内温熱環境の向上</td> </tr> <tr> <td>LR-2 2 2.5 ㉔</td> <td>持続可能な森林から産出された木材</td> </tr> <tr> <td>LR-3 2 2.2 ㉔</td> <td>温熱環境悪化の改善</td> </tr> </table>	Q-3 1	⑳ 生物環境の保全と創出	2	㉒ まちなみ景観への配慮	3 3.2 ㉓	敷地内温熱環境の向上	LR-2 2 2.5 ㉔	持続可能な森林から産出された木材	LR-3 2 2.2 ㉔	温熱環境悪化の改善																																																				
Q-3 1	⑳ 生物環境の保全と創出																																																														
2	㉒ まちなみ景観への配慮																																																														
3 3.2 ㉓	敷地内温熱環境の向上																																																														
LR-2 2 2.5 ㉔	持続可能な森林から産出された木材																																																														
LR-3 2 2.2 ㉔	温熱環境悪化の改善																																																														

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)裾野市千福特別養護老人ホーム	階数	地上3F
建設地	静岡県裾野市	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2026年1月10日
敷地面積	3,829 m ²	作成者	興水 昭裕
建築面積	1,414 m ²	確認日	
延床面積	4,223 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 74%
③上記+②以外の 74%
④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	高効率空調機、LED照明を採用することにより、設備システムの高効率化に努めた。これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。	その他特になし
Q1 室内環境	内装材料のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用し、さらにVOCの含有量の少ない建築材料を使用するよう努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷抑制に考慮した。	LR3 敷地外環境 屋外広告物照明を行わないことにより、光害の抑制に努めた。
Q2 サービス性能	耐久性の高い材料を選定し、更新間隔が長くなるよう配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	自動水栓、擬音装置を採用し、水資源の保護に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される